

②教育研究業績書

2019年5月1日			
氏名 宇田川 和久 印			
認定を受けようとする課程における担当授業科目			
領域及び保育内容の指導法に関する科目	大学が独自に設定する科目	教育の基礎的理解に関する科目	大学が独自に設定する科目
		・教育原理（オムニバス） ・教育行政学（オムニバス） ・特別支援教育（単独）	
教育上の能力に関する事項			
事項	年 月	概要	
1 教育方法の実践例		特記事項なし	
2 作成した教科書・教材		特記事項なし	
3 教育上の能力に関する大学等の評価		特別支援教育を専門に歩んでいる。養護学校教諭、養護学校開設準備委員（2校）、特別支援学校の教頭、校長、総合教育センター指導主事、埼玉県教育局参事兼部長を歴任している。経歴、実績から教育行政に通じており、教育学、障害児教育の分野で活躍することが期待される。	
4 実務の経験を有する者についての特記事項	平成3年9月 平成24年9月	平成2年度埼玉県教育委員会長期派遣教員研修生として文教大学今野義孝教授に師事し、神戸大学坂本龍生教授からも指導を受け、動作法と感覚統合療法を融合した指導実践の研究に取り組んだ。また、その成果等について日本特殊教育学会において発表した。 埼玉県教育局在職中、埼玉県の特別支援教育の推進策として進めたノーマライゼーションの理念に基づく教育の推進に取り組むとともに、現在の国のインクルーシブ教育システムの原型となった連続性のある多様な学びの場の仕組みとしての「支援籍」の制度設計に携わった（平成15年7月）。その成果等について、日本特殊教育学会において発表した。 また、養護学校2校の設立の準備委員として活躍しており、教育行政にも精通している。	
5 その他		特記事項なし	
職務上の実績に関する事項			
1 資格、免許	昭和57年3月 平成元年11月	小学校教諭一種免許状（昭56小1普第5244号埼玉県教育委員会） 特別支援学校教諭二種（知的・肢体・病弱）免許状（平元養学2種第11号埼玉県教育委員会）	
2 学校現場等での実務経験	35年	埼玉県立川島ひばりが丘養護学校開設準備委員 埼玉県立総合教育センター指導主事 埼玉県教育局指導部特別支援教育課指導主事、主任指導主事	

様式第 4 号（教員個人に関する書類）

		埼玉県立養護学校さいたま桜高等学園開設準備副委員長、教頭 埼玉県教育局県立学校部特別支援教育課主幹兼主任指導主事 埼玉県立深谷はばたき特別支援学校校長 埼玉県教育局県立学校部特別支援教育課主席指導主事 埼玉県教育局県立学校部特別支援教育課課長 埼玉県教育局県立学校部参事兼特別支援教育課長 埼玉県立養護学校さいたま桜高等学園校長			
3 実務の経験を有する者についての特記事項		特記事項なし			
4 その他		特記事項なし			
担当授業科目に関する研究業績等					
担当授業科目	著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行年月	出版社又は 発行雑誌等の 名称	概 要
教育原理	(教育実践記録等) 1. 共生社会の実現に向けたユニバーサル・デザインの支援 2. 「共生社会の推進拠点」としての特別支援学校の取組とその方向性についてー行政への期待を込めてー	共 共	平成24年 9 月 平成24年	日本特殊教育学会第 50 回大会 (184 ページ) 埼玉県高等学校等校長研究協議会特別支援教育部会研究 (124 ページ)	教育分野における <u>共生社会の実現</u> に向けた取組について、埼玉県の支援籍制度の効果について報告を行った。 <u>教育の基本理念や障害のあるなしによらず共に学ぶという視点から教育の歴史的背景や基本的概念をふまえ、教育が目指すべき方向性について提案した。</u> また、全国に先駆け埼玉県が構築した <u>インクルーシブ教育システム</u> を含む報告を行った。(pp : 81～82) 著者：今野義孝・宇田川和久・小形烈・正垣昌彦・星野晴彦・大石幸二 <u>教育の基本理念に基づき、障害のあるなしに関わらず共に学ぶという視点から、これまでの教育の歴史的な背景や障害者を取り巻く環境の変化をふまえた実践研究である。</u> 公教育、特に特別支援教育が目指すべき、共生社会の推進拠点として地域の様々な資源を活用した取組を行政との連携の中で進める必要性について提案し、特別支援学校の在り方についてまとめた。(pp : 118～123) 著者：中村政代、一谷記由、梶寛治、勝又健司、 <u>宇田川和久</u> 、他 4 名
教育行政学	(教育実践記録等) 1. 埼玉県特別支援教育課程編成要領特別支援学校編	共	平成 22 年 3 月	埼玉県教育委員会 (204 ページ)	<u>公教育として、教育行政が果たすべき役割をふまえ、公教育の制度の意義・原理に基づき、市町村の教育委員会において特別支援教育を推進するための要領を作成。</u> 特別支援教育の中核を担う特別支援学校における、障害種別の

様式第 4 号（教員個人に関する書類）

	2. 共生社会の実現に向けたユニバーサル・デザインの支援	共	平成 24 年 9 月	日本特殊教育学会第 50 回大会 (184 ページ)	指導内容や指導方法、発達障害などを含め、障害のある子ども達一人ひとりのニーズに応じた教育指導の在り方について示した。教育全般にわたるカリキュラムマネジメントを実現させる指導書を作成。（共著のため抽出不可） 著者：新井茂登、黒澤一幸、 <u>宇田川和久</u> 、他 6 名 (再掲のため、略)
	3. 「共生社会の推進拠点」としての特別支援学校の取組とその方向性について－行政への期待を込めて－	共	平成 24 年	埼玉県高等学校等校長研究協議会特別支援教育部会研究 (124 ページ)	(再掲のため、略)
特別支援教育	(教育実践記録等) 1. 埼玉県特別支援教育課程編成要領特別支援学校編	単	平成 22 年 3 月	埼玉県教育委員会 (124 ページ)	(再掲のため、略)
	2. 共生社会の実現に向けたユニバーサル・デザインの支援	共	平成 24 年 9 月	日本特殊教育学会第 50 回大会 (184 ページ)	(再掲のため、略)
	3. 「共生社会の推進拠点」としての特別支援学校の取組とその方向性について－行政への期待－を込めて－	共	平成 24 年	埼玉県高等学校等校長研究協議会特別支援教育部会研究 (124 ページ)	(再掲のため、略)
	4. 「個別化と生活を重視した教育の充実と教育課程の編成と実施」～個別化と生活性を重視した教育の充実～	単	平成 24 年 8 月	全国特別支援学校知的障害教育校長研究大会（中国（島根）大会収録） (126 ページ)	特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒が <u>自立して生活する力を育てるには集団を意図的かつ効果的に活用した学習活動が重要である</u> 。このような幼児、児童及び生徒に対し <u>自立活動の時間を設定して学習上または生活上の困難の改善・克服に取り組む必要性</u> について報告した。また、生活単元学習や遊びの指導、作業学習などの教科等を合わせた指導をとおして、より <u>主体的に外界に働きかけ、社会で自立できる自信と力を育む指導の充実</u> に取り組んでいる内容を述べた。（pp：45～46）